

松江高等学校同窓会
事務局
松江市西川津町3618
島根県立松江北高等学校内
TEL ④4888・⑤0655

(1面) 同窓会館建設のために北高この頃報告・連絡・お願い
(2面) 一万三千人の青春 残礎の地 声・声・声 新校地へ寄せる 寄付金の控除について
(3面) 学制発布当時の教育と県立松江中学校開校 第11回総合体育大会
(4面) 進路状況 「松江北高等学校百年史」編集について

同窓会館建設のために



松江高等学校 同窓会長 森 本 暉
松江北高等学校

今年の夏は異常な日照りで、雨を心待ちするこの頃です。卒業生の皆様には益々活躍のことと思います。

さて、松江北高校移転改築のことにつきましては、昨年九月会報第三号で詳報しましたとおり、汗余曲折を経ながらもようやく着工の運びとなりました。すでに松江一中の移転予定地である島大附属中学校跡地(旧師範学校)において、松江市による新校舎建築工事が着々と進められております。

計画によりまして、この松江一中の新築移転は昭和四十九年三月までには完了し、直ちに赤山台地で松江北高校校舎の建設にとりかかることとなっております。校舎の工事期間は通常三年程度ですが、これをできるだけ短縮し速くとも昭和五十一年度中には新校舎への移転が完了するよう県当局に働きかけております。

われわれ同窓会は、これら移転改築にあわせ、この敷地内かねてよりの念願であった同窓会館を建設すべく、昨年から先輩団体である双松会、松操会とタイ・アップして募金運動を展開しております。

同窓会館は同窓会の諸活動に利用するわけですが、同時に主目的は、在校

生が学級単位の合宿やクラブ活動等に利用することにより、生徒同志あるいは生徒と教師の間の人間的交流を深め、人格の陶冶を求むる場とするものであります。

大学進学等の激化や、学習内容の高度化多様化等により、高等学校教育に様々な歪みが生じ、知・情・意・体の調和ある人間形成を目指した教育の実現が困難となっていることは一般に指摘されておられます。少くともわが松江北高生たちがこの会館を活用することにより、自主性、創造性に富んだ個性豊かな人間性を培われることを切に希うものであります。

募金につきましては、あくまでも個人の自由意思を尊重して行なわれることはいくらでもありませんが、その趣旨をよろしくご理解いただき、また、お願いするものです。そして母校の発展と後輩たちの青春の充実を祈念し、及ぶ限りのご協力を賜りますようお願いいたします。

戦後二十有年、松江高校あるいは松江北高校として輝やかしい足跡を印してきた西川津町の現校舎もやがて消えて行くこととなりますが、この地に学んだ一万数千人の同窓生諸氏にとっ

ては、限らない思い出の地であり、その校地の一部を保存されるよう後述のように関係当局に要望しております。質実剛健の碑文が北高教育の中に脈々と受け継がれていくことをわれわれも切に望むのであります。

報告・連絡・お願い

☆前回の会報(第3号)に発表されましたように、北高移転改築期成同盟会では、私達卒業生の心のよりどころとなるべき、また、在校生諸君の人間形成の一助ともなるような「同窓会館」建築を決議し、そのための募金が始まりました。

同窓会館の建築総工費(四、五〇〇万円)は、双松会(二、五〇〇万円)、松高・北高同窓会(一、五〇〇万円)、松操会(五〇〇万円)の三団体が分担

好機をつぶして、惜しい試合だった。今年の野球部は部員二十人、この天候の如く異変である。北高でも...と他校が目をむく。春の県大会では、くじ運のいたずらでもあったが、八年振りに、ベスト8に残った。

高校総合体育大会も、今年は三年振り、四回目の総合優勝。普通高校で優勝はおろか、上位にあるのは北高だけである。今年は男女のバランスのとれているのがとくに、総合七五点と

一五%以内、これはさらに圧縮される可能性すらある。北高の姿も変わってゆくだろう。

必修クラブ活動というものは、いつまで経っても新教育課程の一年生だけである。週一時間だから、多くを期待するわけにはゆかぬが、内容的には捨て難いところもあるようだ。いろいろなスポーツはむろんのこと、文化系グループもおもしろく、フランス語、ドイツ語などというグループもある。音楽なども小さなグループに分かれて、いろいろな楽器を扱っているし、自然科学系統のものも、実験中心にいい雰囲気があるようだ。時間さえ豊富にあれば...と思うが、一時間ではどうにもならぬところもあるだろう。

海青く、山青く、空もまた青い、ここ松江である。他郷にある諸君は、時には帰ってきませんか。

招かれて祭の店に並びけり かなな女 緑日のなつかしさも、まだここには残っている。夜空に、花火の格別に鮮やかな、今年の水郷祭だった。過疎地の稀少価値は、若い諸君にはまだ実感がないだろうか。



北高この頃
学校長 兼 折 博

今年のはじめ、夏の演習を途中で切りあげた。断水で、飲み水にもこと欠くことになったからである。後期の演習も、この調子だと開講できそうにない。学校図書館も断水で冷房もきかず、三年生には被害か、と気にかかっているところである。

夏休みに入ってから、恒例の高校野球。今年は会場が浜田だったから、全校応援というわけにはゆかなかつたが、2対1で出雲工高に惜敗。再三の

八東郡以外から入学できるのは定員の

ますが、その工事にあわせて同窓会館も着工されます。

この会館は卒業生の寄附金によってのみ建築されるものですから、献金額の概略が把握できないと設計にもとりかかれぬ所です。現在の献金状況は前のおり目標額の二割余りであり、事務局としては焦慮していません。いろいろ御都合がございませうが、今年中に御送金いただきますようお願い申し上げます。御送金の際は、同封の振替用紙を御利用下さい。

☆今後事務局から連絡や報告の書類を送る機会が多くなると思われます。今まで送付した会報その他が、住所変更のためにかなり返送されて来ます。また、事務局では来年度卒業生名簿の編集に着手しますので、会員の住所の確認を急いでいます。なにとぞ御協力下さい。

☆北高移転改築の関連事業である松江第一中学校のそれについてみますと、一中は赤山から外中原町、旧附属中学校々舎跡への移転改築することになり、そのための工事は急テンポに進捗し、昭和四十九年三月には完成の予定とのことです。

☆北高校舎は、会長挨拶にありますように、一中校舎落成直後工事が開始される予定です。なお、クラブ活動専用のグラウンドが西原に確保されている現状です。

☆十八期(四十二年三月卒)以降の卒業生の父兄の方へ、一八期以降の卒業生の方の多くは、社会人としてスタートしてまだ日の浅い方や、在学中であるため、現住所を正確に把握できない状態です。そのため、会報を北高卒業時の住所にお送りいたします。勝手ですがご都合のとき、ご子弟にお届け下さるとよろこびます。住所確認のハガキを同封いたしておりますので、折り返しご投函下さるようお願いいたします。なお、十九期以降の卒業生は、募金の対象になっておりませんので、念のため申し添えます。

一万三千人の青春 残礎の地

前号の会報に、兼折校長は「記念の故地を」と題して、「現校地もやがて道路が縦横に貫通するとあっては、移転は止むを得ぬところだが、あとにせめて記念の故地を残したい、というのには、一万数千の卒業生あげての念願ではなからうか。あるいは、若い今のうちにはそれほど思わなくても、十年、二十年あるいは五十年後になって、故地の痕跡もないことに痛恨の思いをかみしめる、といったことも起り得よう。ささやかなスペースでもぜひ記念の地を残すべきだと考えている……。」と書かれた。この一文が導火線となって同窓会の名において、諸機関に陳情することになった。

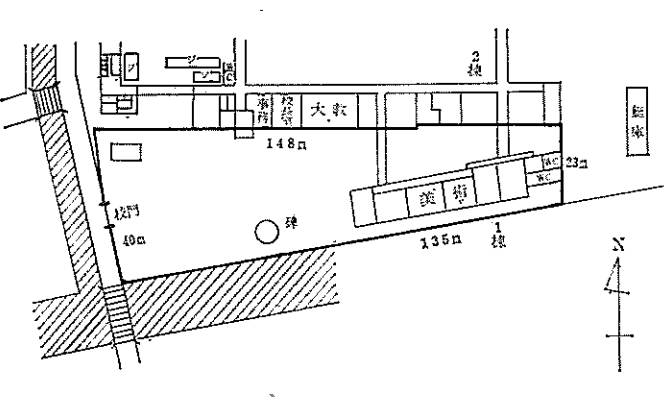
去る六月十四日、森本暉会長、細田重雄副会長、事務局から松本幹彦、藤島久稔の四名が、知事、副知事、県教育長、県議会議員、副議長、市長、助役市教育長、市議会議員、副議長等県市関係機関に左記のような陳情をした。これに対し、色々と好意的な御指示やら御指導をいただいた。

陳情文

母校島根県立松江北高等学校は、県市御当局ならびに関係諸機関の御尽力を賜りました結果、積年の懸案たる校舎移転改築の件が決定を見るにいたり、具体化の一步を踏み出し得ましたことを、卒業生一同先づ御礼申し上げます。

さて、昭和二十四年松江北校の前身校である松江高等学校は、現校地西川津町に発足し、以来無慮一万三千人の生徒が此処に学び、此処から巣立ちました。

此のたび校舎移転に伴い校地は道路その他に転用される由承りましたが、此の地に若き日はぐくまれました卒業生は、あけて故地にかぎりない愛惜の情を寄せているのであります。依つてこの環境の一部が保存されることを



衷心より希うものであります。御当局におかれましては、松江高・松江北高卒業生の斯かる切なる希いを御くみとり下され、校舎移転改築後、左記の如くにて、校地の一部を松江北高校残礎の地として保存していただきますようここに陳情いたします。

記

一、現在地 松江市西川津町三六一八
一、保存希望区域(約四、二五〇平米
一、希望地域選択の理由

(1)希望区域はすでに多種歴年の樹木が繁茂していること。
(2)卒業生にとつて最も印象深かつ、校風を象徴する場所であること。
(3)前身校、松江中学校々々長、西村房太郎氏揮毫の碑「質実剛健」が建立してあること。
(4)市道と堀川に接する区域であり、将来緑地帯として市民の憩いの場に活用できる場所であること。

一の声 私共は昭和二十年赤山の松江中学校へ入学しました。入ってすぐ軍動員、イモとマメを喰べました。そして八月敗戦、学校長退任による長期間の空席、校舎炎上、再建、又炎上、校庭での青空教室、旧制高校と女専での借り校舎授業、学制改革により中学四年になるころを、新制松高一年生に、女生徒四人が入学。とても珍しい存在に思えました。女生徒を「ガス」と呼びましたね。高校三年生の十月、いやだいやだといふのをひきずりおろされて田町(現校舎)へ。赤穂浪士の心境でした。そしてそこでは松の梢をわたる風の音にかわつて、造船所のハンマーの音をききましたよ。眺めるものといえは秀峰大山ではなくて、ガス・タンク。しみじみ情無かつた。

その赤山へ帰るといふのです。下山の時ひきかえてこんどはイスラエル国を建国した民族の気ががじつによくわかりますな。は、は、は、いや愉快。今夜は早速前祝い。その時は提燈行列をしますよ。

二の声 お年寄りの卒業生の方は、何かといえ「赤山、赤山」ってうわごとのように仰言いますが、この間ははじめに地図をたよりに登山服を着て行ったら、山でなくて「丘」でした。ぼつんと松が二本たっていました。スポーツの邪魔にならないのかしら。あんな狭いところに近代的校舎が建つのでしようか。それに交通の便はどうでしょうか。我達の通った西川津とは、東の涯(はて)と西の涯で環境、雰囲気はまるっきり違ふけど、強いて共通点をお

げると、堀端を通って生徒が通学することでしょうね。

どんな学校ができるのか想像もつきません。でもあまり過去や伝統にとらわれて、固執しい校風にならぬいで、私達若い卒業生が時々ふらりと気軽に行つてみたいと思えるようなのびやかで気品たかい校風ができてほしいと思います。ちょうど、今の北高の校風がそうであるように……。

四の声 所在なきに、日曜の午後を寝ころんで、見るともなく部屋を見廻す。カレンダーや額、たんに水屋、物を積みあげた床の間、散らばる新聞雑誌。よくもこんなに物を置いたものだ。物に埋もれて息苦しさを感じてくると、子供の頃育った田舎家のがらんとした部屋のよそよそしさ、風に吹かれ陽にさらされた縁側のさわやかさがここにはない。ただ、一見便利で居心地よく作られ、趣味的に彩られた部屋と家具がある。その中にちまちまとして小心で怠惰なおのれがある。ベニヤ板のように軽薄に、人形のように甘たられて、置物のように満足して暮らしている。

声・声・声・声 新校地へ寄せる

人は家を建てる。なげなしの金と知恵をはたいて建てる。だが今度は人が人を造る。家に合わせた生き方を強制してやる。一着の洋服が、瘦せることにも太ることも拒否し、一足の靴が靴下の厚さを規制するようなものだ。しかも賢しらぶって、家具の寸法に合わせて家を建てるような「合理主義」や、「機能主義」が、型通りの生き方に輪をかけて。縁側を捨てると同時に閉鎖的になり、部屋の独立をかち得た時に家族の接触も乏しくなったのだ。人間の知恵といつても、その程度の浅

はかなものだ。人間が明日は何を考へるかわからない代物であることを忘れて、今日の知恵で明日を律しようとして、それは賢しらの知恵であり、その日限りの合理性や機能性ではないか。そんなものなら潜水艦でも見ることがない。限られた空間に最大の機能を持たせた合理性の権化だ。そこには歩くにも眠るにも定まったやり方がある。ぼくらが喜々として得意気に設計したのは潜水艦だったのだ。青い屋根、赤い屋根の潜水艦があたり一面にひしめいている。

水が方円の器に従うものならば、人もまた家に従う道理であろう。ここに

二の声 育つ者が、いかにもその家に住んでいるらしい人間になるとすれば、人を容れる器は似而非合理主義で作つてはならない。いや、それどころか逆に、決して人になじまず、怠惰や感傷や少女的美意識を受けつけない厳冽さがほしい。部屋に入れば端坐したくなるような厳しさやそつけないさが、むしろほしい。白木で重厚に造られた単純卒直な部屋に坐して、単純卒直に生きてみたのである。洋服や靴のような目先の合理主義を捨てて、和服や下駄のさわやかさがほしいのである。多少の不便があつても、どんな体型でも包んでくれる衣をまとって、初夏の風を吹き入

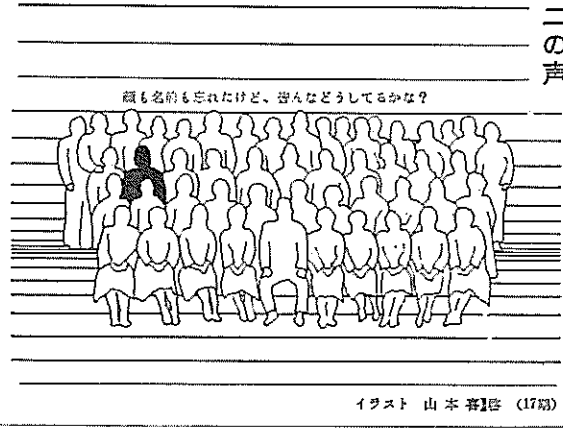


イラスト 山本 雅彦 (17歳)

寄付金の控除について

同窓会館建設資金としてご寄付いただきましたものについて、損金算入の特例を適用してもらうよう申請していただきますところ、昭和四八年六月十二日付、広島直法第三八三号、広島直所第二六三号にて、左記のような承認の回答を得ましたのでお知らせします。

記

適用期間 自昭和四八年七月一日
至昭和五二年三月三十一日

○法人の場合(法人税法第三七条第三項第一号適用)
申告書にその金額を記載し、かつ寄付金の明細書の添付があるときは、当該法人の各事業年度の所得の計算上、損金に算入されます。なお法人の代表者が、個人として拠出すべきであると認められる寄付金を法人の寄付金として処理されても、その金額は当該代表者等に対する給与と認められ、寄付金として取り扱われませんが、当該代表者等については、次の個人の場合に準じて確定申告していただくようになります。

○個人の場合(所得税法第七八条第二項第一号適用)
寄付をした年に、領収証を添付して確定申告をして下さい。ただし、年末調整の控除対象にはなりません。疑問の点は、同窓会事務局の方にお問い合せください。

既に御送金いただいた方で、この控除の適用を希望される方は、御面倒ですが事務局まで御連絡下さい。

今後御送金いただく方の中で右控除を希望される方は、送金の際、その旨書き添えて下さい。

(国語科教諭・福村栄一)

学制発布当時の教育と

県立松江中学校開校

原 田 米 蔵

はじめに

昨昭和四十七年は、日本の近代教育制度の始まりと言われる「学制」が明治五年八月三日に発布されてから満百年にあたり、それを記念して全国各地で記念行事が行なわれ、県教育委員会でも昨年四月から四九年計画で、島根県教育百年史編さん事業に着手し、十一月八日には、県民会館で学制百年記念式典・教育功労者表彰・記念展示会を行った。本校でも、本紙別稿・池橋先生記、「松江北高等学校百年史」編さんについてに見られる記念行事を計画しておられる。実は、昨年四月期せずして同時に、「北高百年史編さん委員会」と、私の所属する「県教育百年史編さん室」が発足した。そこで、県教育百年史編さん室は、北高百年史編さん委員の先生がたと資料収集についての情報交換をしたり、教示を受けたたりしながら仕事を進めている。北高の前身である県立松江中学校の開校事情については、北高百年史で詳述されることであるが、ここでは、県教育百年史編さん室からの概観を述べることにする。

学制発布当時の教育 (1)

維新政府は「邑ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメント期ス」(「被仰出書」五年七月、太政官第二百四十四号)を公布した。士族のための藩学校、一般人民の寺子屋に代わって、全国一律の学校教育が、学区ごとに開設されることになった。出雲部の島根県には五四三、石見部の浜田県には四二〇の小学区がおかれたので、合計九六三の小学校が建設されなければならなかったが、新校舎建築は例外で、地方名望家の特志寄附が大きい役割を果たしていた。その良い例が若槻

礼次郎の大谷小学校である。その土地で親方と呼ばれる人の牛小屋の二階が校舎に提供され、六十歳の親方が校長となり、十六歳の若槻青年が食事つき一円五十銭の給料の代用教員で、この二人で大谷小学校を運営している。中等教育のはじまり (2)

初等教育はこのような状況で始められたが、中等教育は八年四月松江教員伝習校の開始に始まった。同年五月十七日には、教員伝習校教師、桃好裕他二名から、変則中学校の開設を建言する書類を県令、関盛良に提出している。要約すると次のとおりで、中等教育の必要性、当面する困難点、その解決策を示している。

「本県は山陰の僻地であって天下の事情に疎いが、小学校、教員伝習校が開校して大いに結構なことである。しかし、これではまだ不じゅうぶんで、他県にはおおいにおい中学校ができています。本県は三中学校区がありながらひとつも中学校がない。中学校建設には二つの難点があり、一は資金で、二は教員である。しかしすでに資金の貯蓄があり、中学伝習校とすれば設備も多量に増えなくても済み、教員は伝習校の教員を用いればよい」

県立松江中学校の開校 (3)

前掲の建言書がもとになり、九年二月に県は次の布達を發し、変則中学校を松江教員伝習校内に設けることを公示している。

「変則中学を松江伝習校内に仮設し、小学卒業及び学齡外の者、請うて入学するをゆるす旨を管内に布達す。

変則中学校建築の儀、自今、其の筋稟議中、追って教則校規等、頒布に及ぶべく候へども、さしむき教員伝習校に於て変則中学の課程を置き、仮に開業

候に付き、小学科卒業生徒、及び学齡外満十四年以上の者、青年の輩、通学を許すべく候条、志願の者は来る三月五日迄に同校へ願出るべきこと。」

開校当時の松江中学校の状況については次稿に譲るが、以上の記事の中で見慣れない語について蛇足と思うが説明しておく。

一、教員伝習校 (4) 明治初年に府県に設立された教員の養成および現職教育の施設。のちの府県立師範学校の母体となった。

二、変則中学校 (5) 学制期に特有な中学の分類で、「学制」の規定に則した中学を正則中学といい、規定に合わない中学を変則中学と称した。

参考文献

(1) NHK松江放送局編、島根の百年、むかしの小学校

(2) 新修島根県史、通史篇二、松江中学校の開校

(3) 明治五年島根県歴史、政治部、学校の項

(4) (5) 日本近代教育史事典、海後宗臣監修、平凡社

(6) 島根県教育庁総務課教育百年史編さん室勤務、松高一期卒

輝く総合優勝

第十一回総合体育大会

昭和四十八年度、第十一回県高校総合体育大会は六月七日から四日間、石見部を中心に開かれました。圧倒的な強みを見せたバドミントン、ボート、軟式庭球をはじめ各種目にわたりよく頑張つて、三年ぶりに総合優勝旗を北高に持ち帰ることができました。十二日には体育館で戦勝報告会を行ない全校あげて勝利を祝いました。更に全国大会での健闘を期待したいと思います。

〈総合成績〉

- 男女総合 ①松北 ②松江 ③松商
男子総合 ①松江 ②松北 ③江工

〈陸上競技〉

- 女子総合 ①松商 ②松北 ③浜商
男子四〇〇Mリレーに中国新
男子一〇〇M ③藤沢 一一秒五
棒高跳び ④三島
走幅跳び ④和泉 ⑤原
走高跳び ④和泉
五種競技 ③早川
二〇〇M ②和泉 二二秒九
四〇〇M R ①松北(藤江、原和泉、松蔭) 四三秒三
中国高校新

〈体操競技〉

- ①松北A ②江工A ③江の川
宿敵大田を破って優勝
男子 団体総合 ①松北 ②大田
個人総合 ②高橋 ③佐野
種目別
床運動 ②佐野 ④山崎
あん馬 ①高橋 ③佐野
つり輪 ①高橋 ⑤佐野

〈硬式庭球〉

- 男子 団体 決勝 対松商3-2勝
シングルス 優勝小川②新田
ダブルス 優勝赤木、内田
女子 シングルス 優勝長崎②吉儀
ダブルス 優勝長崎、吉儀

〈剣道〉

- 女子 団体総合 ①大社 ②松北
個人総合 ①渡辺 ④斎藤
種目別
跳馬 ②斎藤 ③渡辺
平行棒 ②渡辺 ⑤斎藤
平均台 ①渡辺
床運動 ①渡辺 ③斎藤

〈軟式庭球〉

- 女子、団体、個人、共に優勝
男子 団体 決勝 対松工0-2敗
女子 団体 準決 対松商2-0勝
男子 個人 ③名和川・吉田組
女子 個人 優勝 野津・瀬崎組
小林・柿田組

〈バドミントン〉

- 男子個人、団体を完全制覇
男子 団体 準決 対出商3-0勝
ダブルス 優勝日笠、岸組
シングルス 優勝 和田②岸
ダブルス 対島商0-3敗
シングルス ③岩間、錦織組

〈弓道〉

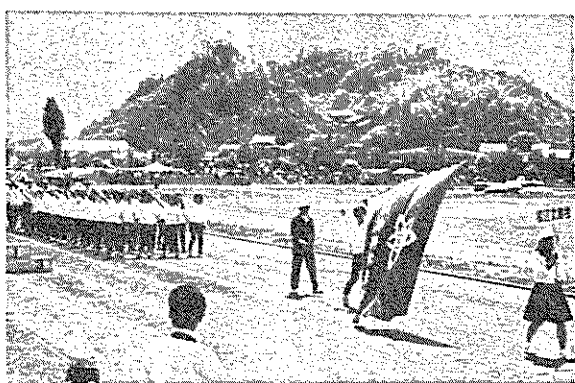
- 女子 団体 ④松江北

〈サッカー〉

- 一回戦 対出工 0-4敗

〈バレーボール〉

- 男子 二回戦 対松江南 0-2敗
女子 二回戦 対出雲商 0-2敗



- 女子標準優勝
男子 一回戦 対浜高 97-49勝
二回戦 対松農 59-51勝
準々決 対松江 63-83敗
準々決 対松農 67-35勝
準決勝 対松南 39-33勝
決勝 対松商 41-87敗

- 女子標準優勝
男子 一回戦 対浜高 97-49勝
二回戦 対松農 59-51勝
準々決 対松江 63-83敗
準々決 対松農 67-35勝
準決勝 対松南 39-33勝
決勝 対松商 41-87敗

- 男子 団体 ④松江北

- 一回戦 対出工 0-4敗

- 男子 二回戦 対松江南 0-2敗
女子 二回戦 対出雲商 0-2敗

進路状況

希望を胸に各自の道へ

実る努力—進学
就職も好調

今年も男子二百四十三名、女子百六十五名の後輩が母校を巣立って行きました。進学に関しては一時全国を風靡した学園紛争の波もようやくおさまり、再び激化した受験競争の渦中において、遺憾なくその実力を発揮し、質的にも量的にも立派な成果をあげ、大いに気を吐きました。また、就職の面では、求人数に対して、就職希望生の数が少ないという関係もあり、大体本人の希望通りの職場につくことが出来ました。以下、その状況をお知らせします。

- 国立一学期校
北海道大(一) 東北大(一) 千葉大(三) お茶の水大(一) 東京大(五) 東京教大(二) 一橋大(二) 新潟大(一) 金沢大(二) 三重大(二) 京都大(一) 大阪大(一三) 神戸大(四) 鳥取大(二六) 岡山大(二五) 広島大(二〇) 徳島大(一) 高知大(六) 九州大(五) 長崎大(三)
国立二期校
小樽商大(一) 茨城大(二) 群馬大(一) 東京医科歯科大(一) 東京大(一) 東京学芸大(一) 京大(一) 京農工大(一) 横浜国大(一) 富山大(三) 山梨大(三) 信州大(一) 岐阜大(二) 静岡大(一) 京都教大(一) 大阪外大(二) 鳥根大(六) 山口大(五) 香川大(一) 愛媛大(三) 佐賀大(一) 鹿児島大(一)
公立大
東京都大(一) 横浜市大(一) 都立文大(二) 京都府大(一) 京都府立医科大(一) 大阪市大(四) 大阪府大(四) 高知女大(二) 北九州大(一) 長崎国際経済大(一)
私立大
東北薬大(一) 自治医大(二) 埼玉医大(一) 城西大(一) 青山学院大(七) 学習院大(一) 北里大(一)
(一) 共立薬大(二) 杏林大(一) 慶応大(一) 工学院大(三) 駒沢大(一) 実践女大(三) 芝浦工大(八) 上智大(六) 女子美大(一) 成蹊大(三) 清泉女大(一) 専修大(五) 中央大(二) 津田塾大(一) 東海大(四) 東京経大(三) 東京女大(二) 東京電機大(三) 京農大(二) 東京理大(五) 東邦大(二) 東洋大(二〇) 日本大(三) 日本獣医畜産大(一) 日本女大(三) 法政大(一) 武蔵大(四) 武蔵工大(二) 明治大(一八) 明学大(二〇) 明治薬大(三) 立教大(五) 早稲田大(一五) 神奈川大(五) 神奈川歯大(一) 相模女大(一) 金沢工大(一) 松本歯大(一) 名古屋女大(一) 南山大(二) 日本福祉大(二) 皇学館大(一) 大谷大(一) 京都産大(三) 京都女大(二) 京都薬大(三) 同志社大(一) 同志社女大(一) 立命館大(一六) 龍谷大(一) 大阪経大(九) 大阪芸大(一) 大阪工大(二) 大阪薬大(一) 関西大(一四) 関西外大(三) 近畿大(三) 桃山学院大(一) 関西学院大(一四) 甲南大(一) 神戸学院大(二) 神戸女学院大(一) 神戸女子薬科大(二) 武庫川女大(一) 天理大(三) 岡山理大(一) 広島経大(一) 広島工大(三) 徳島文

- 理大(一) 松山商大(二) 福岡大(五) 長崎造船大(一)
公立短大
三重短大(二) 鳥根女短大(九) 岡山県短大(三) 尾道短大(三) 山口女短大(二)
私立短大
青山学院女短大(六) 共立女子短大(四) 昭和女子短大(二) 女子美短大(二) 実践女短大(三) 東京女子短大(二) 武蔵野美術短大(二) 京都女子短大(七) 成安女短大(一) 平安女学院短大(一) 大阪愛信女短大(二) 関西外国語短大(一) 金蘭短大(一) ノートルダム清心女短大(一) 広島女学院短大(一) 広島文教女短大(四) 梅光女学院短大(二)
準大学
防衛大(一)
高等看護学院
鳥大医学部付属(二) 岡大医学部付属(一) 国立呉病院付属(一) 京都第二日赤(二) 広島県立(一) 社会保険中央(一)
その他の各種学校
鳥根歯科衛生士学院(二) 九州歯大付属歯科衛生士学院(一) 国立京都病院長等看護助産学院(一) 岡大付属診療放射線技師学校(一) 名古屋大診療放射線技師学校(一) 広島県立衛生検査学校(一)
就職
第一勧銀(一) 山陰合銀(二) 富士火災海上(一) 野村証券(一) 玉造厚生年金病院(一) 日本ビシネスコンサルティング(一) 佐藤造船(一) 株式会社タカオカ(大阪)(一) 家業(一)

松江北高等学校百年史 編集について

明治九(一八七六)年に松江中学が誕生してから数えると、来る昭和五〇(一九七五)年で百年目を迎えることになりました。本校では百年を期して標榜の校史を編集しようとしています。折から赤山への復帰も本決まりになり、百年の歩みをふりかえることは、今後の発展のためにも極めて有意義なことと考えます。今日の本校の前身は松江中学のほか、松江高女、松操女学校もありますので、これらの誕生と発展についても充分な取り扱いをしなければなりません。校史は本校の誕生と発展だけでなく、広く本県中等教育の誕生と発展を叙述するものともなるはずで、この企画はかなり前からありました。この四月から編集陣容を整えて急ピッチの作業を始めています。編集委員の中で直接執筆を担当するのは野々村教諭を始めとする五名です。中学・女学校を含めて戦前期までについては来年三月までには第一次稿を書き上げるべく努力中です。四九年四月からはいわゆる戦後の松高・北高時代の第一次稿に進もうと予定しています。私は明治期松中と戦後期松高とを分りますが、資料の不足に悩むことも、各方面の好意あるご援助で、よい校史が書けそうだとのお感をもつようになっています。例えば皆さんは西田千太郎氏という人をご存知でしょうか。小泉八雲が松中で教鞭をとっていたころの英語の先生で教頭をつとめ、校長代理をしていた人です。この方の二男にあたる西田敬三先生(この方も松中卒業生ですが)のご好意で千太郎氏の教員時代の日記、また松中草創期生徒時代の日記等を借覧することができたことは、最近とくに嬉しいことでした。生々とした歴史叙述は生々とした資料が入手できることを前提とします。私たちは上京して文部省関係の資料も探していますし、県関係の資料も当たっています。さらに新聞記事等も丹念に調べています。が校史にとって最重要な資料は現実に学園生活の中で記録されたものや学園生活を体験したひとの回想等です。戦後松高期の卒業生の皆さんに、当時の校友会誌、アルバムその他の資料の提供をお願いいたしてお願ひします。当時についての回想等お寄せいただきたくお願ひします。校友会誌のうち昭和二六年度、昭和二八年度、昭和三〇年度、昭和三三年度の分はまだ入手できず探求中です。お持ちでしたら借覧させていただきます。喜びます。また積極的に回想をよせていただく喜びます。卒業生の皆さんの協力を得て、ぜひともりっぱな読みごたえのある校史を書くつもりでありますので、ご協力を願ひする次第であります。各位のご健勝ご健闘を祈ります。(社会科教諭 池橋達雄)



岩谷亮治先生ご急逝

先生は三月二十四日終業式直前学校に於て発病され直ちに市民病院に入院されましたが、三月三十日午前五時十五分、くも膜下出血のため御年四十二才で逝去なされました。先生は昭和三十一年二月、松江高校へ赴任せられ、以後十八年の長きにわたって本校数学科教諭として教鞭をとられたのであります。卒業生一同心から御冥福を祈るものです。御遺族は、松江市北田町一九番地 岩谷松栄氏です。

東京・神奈川・千葉・埼玉に在住の皆さんへ
東京双松会では会員の名簿作成のために会員の消息を調べています。上記地域に在住の方は、次の事項をハガキに記入の上、草加市松原三丁目C46-4 (〒340) 木佐安允宛にご一報下さい。氏名、卒年、勤務先または在学学校および住所、現住所ならびに電話番号など。

近畿松江高・松江北高同窓会総会
とき 48年9月9日(日) 12:00~14:00
ところ 東洋ホテル(地下鉄御堂筋線中津駅下車)
会費 S25~S41卒の男性 3,000円
S42卒以降の男性、および女性 2,000円
大阪在住の方には別途ご案内いたしておりますが、連絡洩れの方もあるかも知れませんのでお誘い合わせの上ご出席下さい。
連絡先 泉北郡忠岡町馬瀬267 有松将 (〒595)